

気をつけましょう

春の多産期をすぎると、鶏にとって最も苦痛な高温多湿の梅雨がやってきますので、管理面に特に注意しましょう。

▽計画をよくたてて仕事を実施しよう▽

処置を要することは農繁期にかかる前にあらかじめよく計画をたてて管理は労力が許すかぎり最善をつくしましょう。

▽鶏舎周囲の排水溝を整備しよう▽

鶏舎内に雨水が入らないように排水がすみやかに出切るように注意しましょう。

▽収容羽数に無理のないようにしよう▽

単位面積あたりの収容羽数が多すぎると不衛生ですので駄鶏淘汰を適切にしてらかな収容羽数にしましょう。

▽良質の飼料を給与しよう▽

高温多湿のため食欲が減退しますから穀類を少し増し、産卵状況をみながら魚粉を若干増加してやり、又飼料が変質醗酵しやすいので飼料の購入、給与にあたっては特に注意しましょう。

養
鶏

養
豚

▽豚舎の衛生管理▽

梅雨期は豚舎の換気、乾燥につとめ床は水洗等により常時清潔に、敷ワラは9月上旬頃まで子付母豚、妊娠末期豚以外は不要です。餌箱の水洗、運動場の排水、排水溝の整備と飼料の変敗防止、蚊蝇の発生を防ぎましょう。特に蝇発生は、薬剤散布で防止しますがなお発生の場合は、殺虫剤低毒性有機燐剤トリクロロ・ヒドロキシエチル・ホスホネート等で殺虫すると効果があります。

▽皮膚病と下痢防止を▽

不潔な豚舎では、子豚が皮膚病と下痢に犯され易く、発育が阻害されます。床は水洗消毒し、皮膚病は患部を良質石鹼で洗い、カサブタを取除き、湿疹に効果ある軟膏類を数回患部に塗布するとよろしい。甚しい下痢には、オレオマイシン、テラマイシン等の抗生物質投与と軟質の消し炭、腐蝕土等を自給給餌すると効果があります。

▽豚コレラ、流行性脳炎の予防注射を▽

伝染病の発生時期です。豚コレラと流行性脳炎の予防注射で、養豚経営の完璧を期しましょう。